

商用水素ステーション37か所を 四大都市圏にオープン

当社は、2014年12月25日、商用水素ステーション1号店を海老名市で開所したのを手始めに、2016年3月末日までに、37か所の商用水素ステーションを開所した（首都圏25、中京圏5、関西圏3、北部九州圏4）。

各ステーションへの水素供給は、首都圏の固定式ステーションと移動式ステーション^(注1)へは、水素製造出荷センター（2016年3月18日開所・神奈川県横浜市）から供給し、それ以外の地域の水素ステーションへは、オンサイト型^(注2)ステーションで製造した水素を、オフサイト型^(注3)ステーションに輸送する方式を基本としている。

また、「サービスステーション（SS）一体型」^(注4)ステーションの運営はSS運営会社（（株）ENEOS フロンティアおよび（株）ENEOS ウイング）に、「単独型」^(注5)、「移動式」および水素製造出荷センターの運営は、（株）ENEOS 水素サプライ&サービス（2014年10月に設立）に委託している。

今後も引き続き、水素製造ならびに自動車用燃料供給に関わるインフラやノウハウを活かし、水素の「製造」・「輸送」・「販売」の効率的なビジネスモデルの構築を通じて、水素社会の実現に向けて貢献していく。

（新エネルギーカンパニー 水素事業推進部 総括グループ 玉川 晶子）

（注1）トラックに水素充填装置（圧縮機、蓄圧器、ディスペンサー等）を搭載し、規定の水素供給拠点へ移動し、販売する運営形式

（注2）水素ステーション内に設置した水素製造装置で原料となるLPG等から水素を製造し、蓄圧器に貯蔵、販売する形式

（注3）水素を水素ステーションの外部から供給し、蓄圧器に貯蔵、販売する形式

（注4）ガソリン計量機と水素充填機を併設し、ガソリン、水素を販売する運営形式で、SS同様、カーメンテナンス等も提供

（注5）水素充填機のみを設置し、水素のみを販売する運営形式



図1 Dr. Driveセルフ潮見公園店（SS一体型）外観



図2 水素製造出荷センター

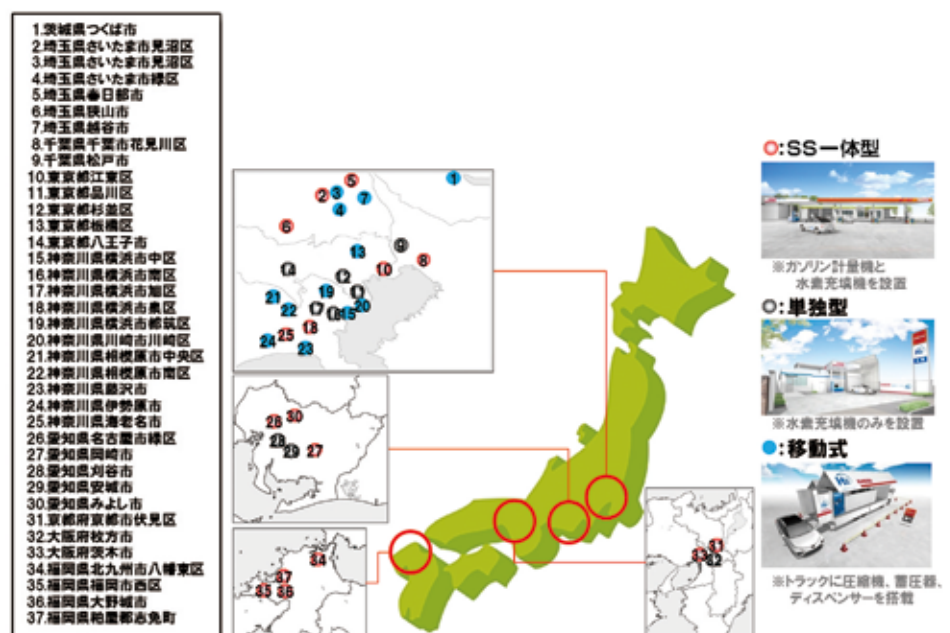


図3 当社水素ステーション展開状況